

青年海外協力隊 派遣現職教員の活躍

15 - 1 マーシャル
小学校教諭
荻野 晃子

Republic of Marshall Islands



1. マーシャルでの活動

(1) 個人での活動

< 算数 > マジュロ環礁・リタ小学校

(2) 他のJOCVと連携しての活動

< 算数 >

(3) その他

(1) 個人での活動 < 算数 >

算数指導(子ども達)



算数指導支援(先生)



算数指導(子ども達)

分かりやすく, 楽しい授業をめざして

- ・ 指導案作成
- ・ 補助教材作成
- ・ 学習規律づくり

< ルール >

1. 一生懸命勉強する
2. ものを食べない
3. 口笛を吹かない
4. 時間を通りに来る

算数指導支援(先生)

事前に準備し、働く喜びを実感できることをめざして

T T

ワークショップ

年間計画の推進

- ・每学期(4学期制)担当学年を変え、できるだけ多くの先生と関わる。
- ・必ず目的を話す。
- ・どのような入り方をするのかを相談の上、決める。
- ・授業中に気になったことをメモし、授業後に感想を交換する。

- ・大きな数、かけ算、立体、コンパスの使い方についてなど。
- ・希望を聞いたり、様子を見たりして決定する。
- ・JOCVの伝達
(広域研修での内容・振り返り・週案使用のモニター)

- ・1年目は、JOCVが以前作成していた年計を使用。
- ・2年目は、自分で作った年計を進める。教育省に、サンプルとして提案。
- ・現在、教育省が年計を作成。今年度より、各校で実施。

(2) 他のJOCVと連携しての活動

月に1～2回程度，小学校算数部会を開き，情報交換や，連携して行っている様々な活動の打ち合わせ，準備を行った。(教育省・算数担当のシニア隊員も含めて)

公開授業

広域研修

計算大会



公開授業

算数指導者が研修できる機会をつくるため、月に1度、JOCVがいる小学校(6校)を会場に輪番制で行った。

年度	授業者	授業検討の役割分担	その他
2003 (6校)	JOCV	JOCV	手作り教材の紹介 (授業検討に続いて)
2004 (7校)	カウンターパート	各校で	手作り教材の作成 (別の日を設定)
2005 (7校)	算数指導者 全員	各校で	

*最後の1時間を公開授業にあて、その後検討会を開いた。

*参加者数は、各校長の理解度によって、違っていた。

広域研修

パラオでパラオ・ミクロネシアと共に、広域研修会を開いた。(2004年8月)

<背景> 歴史(USAからの独立)や現在の状況(USAの教科書を使用,課題など)には共通点が多いにも関わらず,各国のつながりがなかった。

<目的> ・互いによいところを学びあう。(パラオの年間指導計画など)
・共通課題を見つけ,それぞれのアプローチの仕方で問題解決に迫る。
進捗状況を情報交換することで,モチベーションを継続し取り組みの活性化につなげる。

<成果> ・カウンターパートととてもよい人間関係ができた。
・共通テストを実施・分析したことで,自国の算数レベルに気づき,カウンターパートが大変意欲的になった。

・互いによいところが学びあえた。

(パラオの年間指導計画・ミクロネシアの指導法・マーシャルの公開授業)

・自分たちの課題について考える,よい機会となった。

・共通課題 = レッスンプラン(一時間の流れ・年間指導計画)の充実

・レッスンプランの充実に向けて,具体的な取り組みを進められた。

<課題> 次の開催につなげるのが難しい。(取り組みの進捗状況・時期等)

広域研修



計算大会

子どもの基礎基本の定着をはかったり、教師のモチベーションをあげたりするため、学期に一度、クラス対抗計算大会を開き、結果を発表した。

- ・参加は、算数指導者の希望とした。
- ・出題は四則計算が中心。学年ごとに問題を設定し、練習問題やテストを事前に配布し、結果よりも過程を重視した。
- ・結果を分析し、気づいた点をアドバイスして、意欲の継続を促した。

< 成果 > ・基礎基本の向上につながった。
・子どもも教師も意欲的になった。

< 課題 > テストの実施や採点方法などが徹底しにくい。

(3) その他

- ・**栄養指導**・・・朝礼で子ども達に呼びかけ
学期に一度の保護者会で保護者に呼びかけ
- ・**ごみ問題**
 - (1年目)・環境省にプレゼンを依頼
 - ・環境省と連携し, 他校とポスターコンクール ピクニック + 海岸掃除
 - (2年目)・環境問題を扱うアメリカ人ボランティアチームに入り, いっしょに検討
 - ・環境省にプレゼンを依頼
 - ・授業案作り
 - ・本作り
- ・**さまざまな提案**
(朝礼のもち方や観劇についてなど)
- ・**マーシャルと日本のかけはし**



< マーシャルと日本のかけはし >

マーシャル

日本

やこえ

マーシャル新聞月一回

物品送付

良芸品

(壁飾り ネックレスなど)

CD写真集

リタ小学校紹介ビデオ

子どもの絵 インタビュー

手作り絵本

算数セットや算数用具

(コトパス分度器など)

折り紙や詩など子ども

の作品

南輝小学校紹介ビデオ

日本のあいさつ・

歌・昔話などクラス
で 日常的に紹介

剣道や柔道の紹介

「MATSURU」
や劇、焼きそばな
どで文化紹介

JOCVカレンダーを
制作、配布



互いの国について、関心をもつことができた。

2. 帰国後の活動

- (1) クラスの子どもにマーシャルの紹介
- (2) 日本とマーシャルの子どもの文化交流
- (3) 人材バンクとして登録してもらおう 「出前授業」
- (4) 勤務先・他校での職員研修や国際理解のイベントで、講師を務める

教師としての自分の変容

以 前	以 後
<ul style="list-style-type: none">・がんばるのは当たり前という見方。・うまくいかない時 = なんとかしなくちゃ。・特に疑問をもつことは少なかった。 <p>・仕事は無理してでも精一杯する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・がんばっていてすごいなという見方。・うまくいかない時 = そういう日もある・うまくいく方法をその子にあわせて考えるようになった。 <p>・客観的な見方ができるようになり、当たり前だと思ってきたことに疑問をもつようになった。</p> <p>・日本的な教育だと感じるようになった。</p> <p>・基本的に無理はしない。</p> <p>・「だれとでもなかよくやってほしい」 「その子にもっとあった道はないだろうか」 という思いが強くなった。</p>

教師としての自分の変容





Kommool tata
&
ありがとうございました